

NSG 安全計画 2023



安全な線路



快適な線路



創造性の線路



(株) 日本線路技術

安全文化の定着

安全を高めるには、当社内に確固たる安全文化を築き、それを広げていくことが必要です。社員間の相互信頼に基づいて、起きてしまった事故や事故の兆候等の情報を正しく伝え、それに基づく文化、そして学び行動する文化が、私たちの求める文化です。この5つの文化を定着させることが大事なことです。

発生した事故・事象を正しく報告して、再発・未然防止の取り組みを行わなければ、同種の事故は再発してしまいます。速やかに正しく報告することは事故防止の起点でとても大切です。正しい報告がないと、原因がぶれ対策もぶれてしまい、正しい対策とはなりません。その結果、再発防止対策にもなりません。正しく報告することが、再発事故防止対策に直接つながることから、隠さずに報告する意識を持つことが、第1歩です。

事故には結びつかない「マイ・ヒヤット」は、埋もれている事故の「芽」です。予兆の段階で摘み取ることができれば、確実に事故は防げます。限界のある人間の創造力を補ってくれる事故の「芽」に気づいて、その情報を共有化することが事故防止のポイントです。

原因を究明する際に、相手の立場を過度に配慮し、触れられたくない点を議論しないという「事なかれ主義」であっては、同種の事故は再発してしまいます。また、責任を問うのではなく原因究明の立場で様々な意見を包み隠さず出し合い、意見が対立してもぶつかり合って議論することで、初めて背後要因をとらえることができ、真の対策を立てることが必要です。

過去の事故は貴重な教訓であり、それを活かすことが必要です。自分の現場以外の事故・事象(他山の石)についても自らの箇所に置き換え、対策を考え抜くことが事故防止には重要です。そのためにも、過去の事故事例、三現そして他社の安全について学び、チャレンジしていく心、学習が事故の防止に繋がります。

報告し、気づき、議論し、学習し。そしてそれらが最終的に安全行動に結びついて初めて安全は確保されます。基本動作や指差喚呼も安全行動です。「自ら考え自ら行動する」これが安全を支える原点です。

正しく報告する文化

気づきの文化

ぶつかり合って議論する文化

学習する文化

行動する文化

「NSG 安全計画 2023」の全体像

グループ会社として目指すこと

「究極の安全」

到達点

お客さまの死傷事故ゼロ、社員の死亡事故ゼロ

※社員とは、JR 東日本、グループ会社、パートナー会社、協力会社など鉄道の仕事に携わる人すべて

当社の現状

現状認識における課題

※詳細 -1

安全に関する当事者意識の向上

到達点

意欲と技量を
スパイラルアップ

意欲
(マインド)

「安全文化の定着」で
一人ひとりの意識向上

技量
(スキル)

「仕事の本質」の理解し、
一人ひとりの技術力向上

5年後の目標

・重大事故 : 0
・重大事故につながる取扱い誤りや機器故障等 : 0
・重大事故に至らない取扱い誤りや機器故障等 : **50%減**
(対 2018 年度件数)
※重大事故等 : 詳細 -2

具体的な取組み目標

一人ひとり

安全文化の定着
自ら先頭に立ち安全について積極的に行動できること
仕事の本質の理解
自ら安全について学習し、自らのレベルアップできること

組織

過去の事故の悲惨さとその対策を意識づけさせ、事故防止の大切さを認識できること
同業他社や異業種から積極的に安全の取組みを吸収できること

※具体的な取組み : 詳細 -3

仕事の本質

◎「仕事の本質」を理解し一人ひとりの技術力向上

大きな環境変化に対応していくためには、「仕事の本質」を理解することが必要です。単に仕事の手順ややり方を学ぶだけではなく、仕事の目的、ルールの成り立ち、機器の動作原理など6つの心得を意識して、「仕事の本質」の理解を深めそして技術力向上を目指しましょう。

「仕事の本質」を理解するための6つの心

① 仕事の本質・目的

○「何のためにやるのか」等、鉄道を利用しているお客さまとのかかわりや当社の業務・社員の責任を考えて行動すること。

② ルール・課題の解決

○ルールが定められた意図・経緯・成り立ち・背景を知り、ルールに対しての課題を見出し解決すること。

③ 仕組みや理論の理解

○取扱う機器、装置の仕組み・構造・動作・原理の理解をすること。

④ 仕事のポイント・ツボ

○仕事上絶対外してはならないポイント・ツボを知ること。

⑤ スキルアップ

○自ら知りたいこと、知っておくべき事を確認し、そのことに対して学ぼうとする意欲、知得し技術力向上すること。

⑥ リスク

○「最悪はどうなるのか。そしてそれは起こるかもしれない」等のリスクのイメージを持ち、考え、行動すること。

技術力向上

詳細 -3 一人ひとり及び組織としての具体的な取組み目標

上段□: 安全文化の定着
下段○: 仕事の本質の理解
✓: 現在実施しているもの

安全文化

一人ひとり

組織

正しく報告する文化

✓ 重大事故、重大事故につながる取扱い誤り等が発生させた又は知得した時、マイ・ヒヤットに遭遇した時、速やかに所属長に報告する。
✓ 形式にこだわらず、速やかに段階的に報告する。
✓ 発生した事柄や部品等の名称を正しく言える。

Step 1

□ 報告することの大切さの認識を深める。
□ 正しく報告された重大事故につながる取扱い誤りやマイ・ヒヤットは処分対象としないことを示す。
□ OJTや個人面談等でコミュニケーションを深め正しく報告することの理解を深める。
✓ 事故、重大事故につながる取扱い誤りが発生した時の連絡ルートを整備し、周知する。
✓ マイ・ヒヤットを拾い上げる仕組みを構築する。
○ 用語や名称の勉強会を定期的に開催する。

気づきの文化

□ 発生している重大事故、重大事故につながる取扱い誤り、マイ・ヒヤットに興味を持つ。
□ 変化点を捉え、自らの担当業務におけるリスクを考える。
✓ KYTの実施と振り返りを行う。

Step 2

□ 効果のある KYT の定着のための教育を行う。
□ 変化点は文書で注意喚起を図る。
✓ 点呼要領に KYT と振り返りを組み込む。
✓ 重大事故、重大事故につながる取扱い誤り、マイ・ヒヤットを共有化する仕組みを作る。
○ 効果のある KYT の定着のための訓練を行う。
○ 安全体感研修で事故の「芽」を理解する。

ぶつかり合って議論する文化

□ 議論上分からないことは「わからない」と言う。
□ 予案WGでは自ら積極的に発言する。
○ 真の原因について考え、有効な対策を立案する。
○ 人前で話す機会を作る。

Step 3

□ 重大事故、重大事故につながる取扱い誤りの発生時に事業部等ごとにその背景や自分たちの業務に置き換えた実践的対策について議論する場を設定する。
□ 他会社の安全会議に社員が出席する。
○ 会議等では出席者の全員が発言する様に工夫する。

学習する文化

□ 自ら過去の事故について調べ、自らの業務における安全のレベルアップにつなげる。
□ 三現主義に基づき現場に行く前に自らの事故等について調べる。
○ 安全ポータルを使い方を覚える。

Step 4

✓ 安全大会において、過去の重大事故、重大事故につながる取扱い誤りの振り返りを実施する。
✓ 事故の歴史展示館等における研修で過去の事故の悲惨さについて身をもって理解する。
○ 三現主義によりその事故に対する理解を深める。
○ JRグループポータルの安全ポータルにある重大事故辞典、安全警報の活用。

行動する文化

□ 列車の走行安全と作業安全、安定の違いを意識した考え方ができる。
□ KYT で当日の仕事にマッチした注意ポイントを挙げられる。
□ 不安全行動に対し、直ちに注意できる。
□ 不安全箇所や要注箇所を指摘し、改善することができる。
○ 異常時に落ち着いて適切な対応ができる。

Step 5

✓ 点呼で実践的 KYT を実施できるようにする。
□ 安全上、良い行動を行った社員を表彰する。
○ 安全大会等で列車の走行安全と作業安全、安定の違いを教育する。
○ 他会社と安全に対する取組みについて意見交換を行い、安全のレベルアップを図る。

仕事の本質の理解

仕事の本質・目的

ルール・課題の解決

仕組みや理論の理解

仕事のポイント・ツボ

スキルアップ

リスク

	大分類	分類	項目
意欲 (マインド)	安全文化の 定着	正しく報告 する文化	○発生したことを正しく・速やかに報告する習慣（取扱い誤り、機器故障など） …責任者や従事員が発生した事故等に対する事由の捉え方 …作業状況や発生に至る経緯の確実な説明・報告力 ○発生事象等に対する事象・対策の速やかな伝達
		気づきの文化	○各社員が抱える課題や問題点の部内での共有（社員が考えていること、業務上の悩みなど） ○マイ・ハットや、課題等感じたこと、思いついたことの素直な報告
		ぶつかり合っ て議論する文化 (コミュニケーション ・教育)	○社員間のコミュニケーションの構築・積極的意見交換 …上司と社員、社員同士、他事業部とのコミュニケーション …会議、勉強会での質疑応答 …作業などにおける問題解決のための議論 …理解するまで問い掛ける（正しいこと、誤っていることをはっきり認識出来ること） …進んで発表等を行う（意識の向上）
		学習する文化 行動する文化	○安全研修の机上教育・体験教育を実施（安全に対する意識・取組み意欲の向上） ○積極的な社内専門資格や業務関係資格取得への挑戦と熱意（取組み指導、社員からの質問に対する指導の実施） ○安全に関する社内組織の構築
技 量 (スキル)	「仕事の本質」 の理解と 技術力向上	仕事の本質 仕事の目的	○仕事に対して本質的な価値の理解 …鉄道を利用していただいているお客さまとの関わりと当社の業務・社員の責任を考える指導、仕事に対するやりがい、誇りの持続
		ルール・課題 の解決	○安全に関するルール及び環境変化等によるルールの指導と知悉度（理解度） （勉強会・指導を計画的に開催、継続的な教育、知悉度、理解度の確認と再指導内容の把握）
		仕組みや理論 の理解	○社員の技術力、情報の理解・把握力の向上 …技術勉強会、学びたいこと、自信のないことの把握と実施 ○技術力向上のための社内専門資格や国家資格の取得
		仕事のポイント ・ツボ	○自ら経験して得た情報を他社員への積極的な共有化 …現場特情、自らの経験（成功談、失敗談）を伝達出来る環境の構築
		スキルアップ	○社員指導の組織体制の構築（若手社員技術力の向上と指導者の更なる技術力向上） …指導者と若手社員のグルーピング …四半期ごとの発表会実施（私の学んだこと、私の指導方法等） ○新人教育及び新規導入機器等の作業教育の理解度確認とそれらの管理者間での共有
		リスク	○異常時対応訓練（JRとの合同異常時連絡訓練、滑走・空転対応訓練、搬送台車組立・装着訓練、脱線復旧訓練、検測台車脱輪時等訓練、油漏れ対応訓練等）の実施 ○再発防止の徹底と指導（月毎に、時期・季節に必要な再指導と勉強会実施）

◎ 重大事故等の定義 ◎

当社における「重大事故」、「重大事故につながる取扱い誤りや機器故障等」及び「重大事故に至らない取扱い誤りや機器故障等」について用語の意義は、以下に掲げるとおりとする。

(1) 「重大事故」

列車に乗車中のお客さまや踏切通行者の死傷、社員の死亡事故並びに首都圏における大規模輸送障害をいう。

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| ① 探傷車と列車との衝突 | ⑥ 社員等の触車 |
| ② 探傷車の脱線（東京100km 圏※1） | ⑦ 品質不良（運転規制値（運転中止）の見逃し） |
| ③ 在来線における探傷車や営業車※2 からの部品落失（10kg 以上） | ⑧ 新幹線軌道内におけるモノの飛散 |
| ④ 踏切における探傷車と通行者（車を含む）との衝突 | ⑨ その他、8 項目以外でこれに類するもの |
| ⑤ 当社起因によるお客さまの死傷 | |

(2) 「重大事故につながる取扱い誤りや機器故障等」

一歩誤れば、「重大事故」となるものをいう。

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ① 探傷車の未承認区間への侵入 | ⑥ 保安体制不備での汽笛吹鳴・列車停止 |
| ② 探傷車の脱線（東京100km 圏以外） | ⑦ 品質不良（運転規制値（速度規制）の見逃し、緊急傷の見落とし） |
| ③ 在来線における探傷車や営業車からの部品落失（10kg 未満） | ⑧ 鉄道事業者の検査周期に影響する機器故障※3 |
| ④ 探傷車の本線上でのエンジン再起動不能又はブレーキ不緩解 | ⑨ その他、8 項目以外でこれに類するもの |
| ⑤ 保安体制未構築での線路内立入り | |

(3) 「重大事故に至らない取扱い誤りや機器故障等」

「重大事故」、「重大事故につながる取扱い誤りや機器故障等」以外のものをいう。

- | | |
|------------------------------------|-----------------------|
| ① 機器故障、取扱い誤りによる検測不良 | ② 作業中の傷害事故 |
| ※ただし、本作業前に修繕が完了する等、作業に影響がなかったものは除く | ③ その他、2 項目以外でこれに類するもの |

【備考】

※1 東京100km 圏とは、レール探傷作業における定義と同じとする。

※3 機器故障には、システム障害を含むものとする。

※2 営業車とは、軌道検測車や線路設備モニタリング装置をいう。